

令和5年第1回定例会

一般質問通告書

白井市議会

令和5年第1回定例会 一般質問一覧表

質問日	質問番号	氏名	質問事項
2月16日	1番	竹内 陽子 議員	1. 市町村合併の検証について 2. 市と社会福祉協議会の在り方について
	2番	徳本 光香 議員	1. 白井独自の魅力を生かす持続可能なまちづくりについて
	3番	秋谷 公臣 議員	1. 市の農業振興施策について
	4番	平田 新子 議員	1. 学校給食センターと桜台小・中学校の自校式給食調理場の今後について 2. 白井市文化センターの今後について
	5番	影山 廣輔 議員	1. シビックプライド並びにシティブランドの醸成について
2月17日	6番	伊藤 仁 議員	1. 市街化区域内の雨水排水について 2. 小中学生のフリースクールについて
	7番	田中 和八 議員	1. 白井市発展への今後の方針について
	8番	斉藤 智子 議員	1. 認知症の人が、尊厳を持って認知症とともに生きることができる地域社会を構築するための取り組みについて
	9番	岡田 繁 議員	1. 白井市の宝について
	10番	植村 博 議員	1. 人生100年時代2040年問題について 2. ごみ減量に新たな工夫を
2月21日	11番	和田 健一郎 議員	1. 白井市の異次元での少子化対策について
	12番	石井 恵子 議員	1. 移動困難な高齢者、障がい者の支援について 2. 誰一人置き去りにしない子育て支援について
	13番	小田川 敦子 議員	1. 誰もが暮らしやすいまちづくりを目指して
	14番	柴田 圭子 議員	1. 市長の行政運営について

質 問 事 項	質 問 要 旨
<p>1. 市町村合併の検証について</p>	<p>この問題については、令和2年9月議会で質問しましたが、市は市町村合併の検証は行っていないことと、また推測できないとの考えから再度伺います。</p> <p>(1) 平成15年11月、「印西市・白井市・印旛村・本埜村合併協議議会」による新市将来構想が冊子でまとめられ、新市「北総市」に向け、合併の可否に関する住民投票が行われました。結果は合併反対となりましたが、新しい市のまちづくり、すなわち合併した場合の新市まちづくり計画、計画事業実現のための財政計画、財政面での合併効果等が示されていることから検証はできるのではないかと思います。令和2年9月議会においては検証ができないとの答弁でした。その理由について改めて伺います。</p> <p>(2) 合併をしない決定をした市は、現在まちづくり構想の重点施策を市長はどのように考えていますか。</p>
<p>2. 市と社会福祉協議会の在り方について</p>	<p>社会福祉協議会は住民の地域福祉活動に対する支援ボランティア、市民活動の推進、支援等の活動をし、行政の手が届かない細かい福祉業務を担っています。そこで次の点について伺います。</p> <p>(1) 市は現在、社会福祉協議会をどのように捉えていますか。</p> <p>(2) 自主財源の少ない中で、市の補助金に対する見解について</p> <p>(3) 市が委託した事業をどのように評価し、会計処理をしていますか。</p>

質 問 事 項	質 問 要 旨
<p>1. 白井独自の魅力を生かす持続可能なまちづくりについて</p>	<p>人口減少傾向の白井市において、今ある白井市の魅力を生かして、環境に配慮し、すべての人にとって住みたいと思えるまち、これから住みたい、将来戻って子育てしたいと思えるまちにしてアピールしていくことが、定住と転入を促進する上でも重要だと考え、以下のことについて質問します。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 食べ残し軽減や食育を含め、学校給食を改善する具体的な計画は。 (2) 市独自の農業支援策は。 (3) 子育て世帯を支援する新たな計画は。 (4) より市民・事業者等と連携して、ごみ削減策を加速させては。 (5) 文化センターを市の将来にどう生かしていく考えですか。 (6) 安心して免許返納ができる市内公共交通の改善策は。 (7) 障がい者・LGBT/SOGIの方を含めすべての人が生きやすい環境整備を進めては。 (8) ペットを含む生き物と人とのよりよい共存にむけた取り組みは。 (9) 市としてできる具体的な平和への取り組みは。

質 問 事 項	質 問 要 旨
<p>1. 市の農業振興施策について</p>	<p>白井市の農業は、統計的にみると、ここ20年で、農業経営体数は約32%減少し、経営耕地面積も約40%減少しており、市の主要農産物である梨についても、農業経営体数は約36%減少し、経営耕地面積も約27%減少しています。</p> <p>農業振興施策は、市だけで進めていくには限界があり、国・県と連携して進めていかなければならないところですが、市においても異次元の農業振興施策を実施していかないと、今後衰退の一途をたどるのではないかと危惧しているところです。</p> <p>そこで、次の項目の市の農業振興施策について、これまでの取り組みとその総括、現状と課題及び今後の方針について、伺います。</p> <p>(1) 市の主要農産物である梨の振興施策について</p> <p>(2) 米価が下がり続けている状況での水稻の振興施策について</p> <p>(3) 地域計画（人・農地プランの実質化）策定の推進と市の農業振興施策との連動について</p>

質問事項	質問要旨
<p>1. 学校給食センターと桜台小・中学校の自校式給食調理場の今後について</p>	<p>昭和54年に西白井の旧学校給食調理場が開設され、12校の小中学校の給食を賄っていました。平成6年に桜台小・中学校が開校となるにあたり、供給可能食数を上回るなどの理由で、自校式給食が開始となりました。</p> <p>その後の少子化による児童生徒数の減少や古い衛生管理方法、老朽化等の状況の変化を踏まえ、令和2年12月17日より、「桜台小・中学校の給食のあり方検討委員会」が全7回開催され、令和4年8月26日に提言書がとりまとめられ、教育委員会に提出されております。</p> <p>課題となる点は、平成31年4月新しい学校給食センターで給食提供が開始された12校との差異、つまり公平性と、今後の少子化の児童生徒数にあるかと思えます。</p> <p>児童生徒にとっては、健康・食育の面だけでなく、一番の楽しみかもしれない大事な白井市の今後の給食について伺います。</p> <p>(1) そもそも、桜台小・中学校が自校式給食となった当時の経緯を伺います。</p> <p>(2) 自校式給食の桜台小・中学校と、給食センターの12校の給食についての相違点を伺います。</p> <p>(3) 令和元年12月の行政経営戦略会議で了承された見直しの報告、「桜台小・中学校の給食のあり方検討委員会」からの提言書、アンケート調査などによる市民の声、今後の市内児童生徒数の増減予測などを鑑みながら、今後の白井市の安定的・衛生的・効率的・持続的な給食の提供について伺います。</p> <p>(4) 今後のスケジュールを伺います。</p>

2. 白井市文化センターの今後について

白井市の文化センターは、文化会館・図書館・郷土資料館・プラネタリウムという多機能を備えた複合施設で、文化・教育・娯楽・交流といった多様な目的で、市民に愛され利用されている施設です。また、白井市民のみならず市外利用者も多いシンボリックな建物です。昭和56年に白井町の総合計画にその建設が位置づけられ、平成6年に開館。以来、26年が経過し老朽化、その間、大規模改修が行われていない状況下で、屋根や外壁他の判定がCやDとなり、東日本大震災以後の建築基準法改正では天井が既存不適格となり、応急的天井の補強工事が行われ、現在に至っております。

人口減少・少子高齢化など建設時とは大きく市の状況が変化したことも踏まえて、現状にとらわれずに、今後のあり方を模索する「白井市文化センターのあり方検討委員会」の第1回会議が令和3年1月28日より開始され、全8回の会議を経て、令和5年1月の第9回会議では提言書案の取りまとめの段階に入っています。そこで、文化センターの今後について伺います。

- (1) 白井町制30周年を記念して建設された文化センターの建設時の計画は、白井町としては大規模で豪華な施設であったと思うのですが、予算規模や償還についての状況を伺います。
- (2) 建設当初の目的と現在の利用状況を、市としてどのように分析把握しているのかを伺います。
- (3) 今後の文化センターに託す機能や市民の利用などについての考えを伺います。
- (4) 今後のスケジュールについて伺います。

質問事項	質問要旨
1. シビックプライド並びにシティブランドの醸成について	質問事項について、以下の内容をお尋ねします。 (1) ふるさと白井の象徴の柱となるキーワード（ないしキーワード）について (2) 景観行政について (3) 白井のイメージの産業面への展開について

質 問 事 項	質 問 要 旨
1. 市街化区域内の雨水排水について	(1) 現状について (2) 今後の予定について
2. 小中学生のフリースクールについて	(1) 公設民営フリースクールを検討したことがありますか

質 問 事 項	質 問 要 旨
<p>1. 白井市発展への今後の方針について</p>	<p>千葉県では熊谷知事就任後、様々な新規政策を発表し実施し始めています。その後、令和4年末にかけて千葉県では、様々な新しい企画や政策の発表があり、令和5年度には組織の見直しとして、一番目に「成田空港を活かした地域の活性化に向けた体制強化」を掲げ、空港地域振興課を改組し、地域の活性化を担う「成田空港政策課」を設置し、「企画政策室・空港周辺まちづくり推進室」を設置、騒音対策など生活環境を担う騒音対策など「空港地域共生課」を新設し、二番目に「本県における新たな産業・地域づくりに向けた体制整備」として将来を見据えた産業の誘致・創出に向け戦略的な方策を検討するため、「地域づくり課」に「企画戦略室」を新設したことから、これらが最重要政策であることが伺えます。</p> <p>今後の白井市の発展にとって有意義な政策等も発表されています。</p> <p>この政策の恩恵を受け今後どのように市の発展につなげていく方針なのか、そのためには土地利用の変更を含め問題点を洗い出し、方針を決定していかなければならないと考えます。</p> <p>(1) 千葉県の新たな政策について、白井市としての発展に向けどのような方針で臨むのか</p> <p>(2) 千葉県の新たな政策を踏まえて、今後の人口の方針について</p> <p>(3) 千葉県の新たな政策を踏まえて、今後の財政の方針について</p> <p>(4) 千葉県の新たな政策を踏まえて、耕作放棄地を含めた土地利用の方針について</p>

質 問 事 項	質 問 要 旨
<p>1. 認知症の人が、尊厳を持って認知症とともに生きることができる地域社会を構築するための取り組みについて</p>	<p>平成29年度高齢社会白書によりますと2012年は認知症患者数が462万人で高齢者人口の15%だったものが、2025年には20%になり5人に1人が認知症になるとされています。認知症は誰もがなりうるものであり、多くの人にとって身近なものとなっています。</p> <p>白井市でも、今後急速に高齢化の進展が見込まれる中、認知症になってもならなくても、誰もが暮らしやすいまちになるよう制度や環境を整える必要があります。認知症の人が尊厳と希望を持って認知症とともに生きることができる地域社会を構築していくための白井市としての方向性、施策について伺います。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 白井市の高齢化の現状と今後の推移について (2) 認知症の人の状況について (3) 認知症施策を進めるための協議会等について (4) 現在行っている認知症の人に対する事業について (5) 今後、白井市がめざす地域社会の在り方と認知症施策について

質 問 事 項	質 問 要 旨
<p>1. 白井市の宝について</p>	<p>私が白井市に戻り4年間が過ぎました。この4年間で白井市の現状が少しずつ見えてきましたが、38年間白井を離れていたからこそ見えてくる白井の宝があります。市の宝を徹底的にPRして、さらに長所を伸ばす。魅力のある市になれば、おのずと移住者が増えてきて人口減少にも歯止めがかかり、少子化対策にも繋がるはずです。もう一度、市の魅力を再確認してみませんか。</p> <p>(1) 行政の各分野から見た、これは自慢できるという白井の宝をお聞かせください。</p> <p>(2) 市長から見た白井の宝をお聞かせください。</p>

質 問 事 項	質 問 要 旨
<p>1. 人生100年時代2040年問題について</p>	<p>2040年問題対応があまり進まぬまま高齢化がピークに達する年に近づいています。単身世帯は総世帯数の4割に上り、高齢者の身寄り問題が深刻化しています。幸せな超高齢社会作りが課題となっており、幸せとは、また、年をとる人たちの課題について考える必要があります。市は多様化するニーズに対応できるよう地域包括支援センターの運営強化、在宅医療、介護連携の推進、介護予防に努めています。市のスローガンは「目を配り、手を差し伸べる白井のいきいきプラン」です。市民一人一人が介護予防に取り組み、高齢になっても要介護になっても地域での助け合いで、安心して生き生きと自分らしい生活が続けられるよう、地域包括ケアシステムが充実したまちづくりを目指すとしています。健康で長生きをし、必要な知識や適正な生活水準を保つこと、地域社会との絆、これが何より大切ではないかと思えます。</p> <p>(1) 支え合いの危機と、孤立・孤独の進行について。</p> <p>(2) 保健医療制度を支える仕組みを強化する法改正が予定されていますが、サービスの利用控えや家族の負担増とならないよう総合相談支援の役割を担う地域包括支援センターの体制強化について。</p> <p>(3) 家族のいない人が増えている中で、市のスローガンは「目を配り、手を差し伸べる白井のいきいきプラン」とありますが、具体的なPDCAについて。</p> <p>(4) 社会的な交流が幸福感を高めるといわれています。国連の世界幸福報告では日本は社会的サポートが低いと報告されています、困った時に助けてくれる人が少ないというのです。この幸福とは何か、関係性の貧困の解消について伺います。</p>

2. ごみ減量に新たな工夫を

プラスチックゴミの排出削減は喫緊の課題です。海洋プラスチックごみによる財政損失額は、世界全体で年間約130億ドルと推計されています。このペースでプラごみの海洋流出が続くと、50年には魚の重量をプラスチックの重量が上回るという衝撃的な試算もあります。海洋プラスチック汚染対策の政府間交渉では、25年以降の新条約の採択に向けて、日本が高い知見と豊富な経験を生かし、議論を積極的にリードしていくべきと思います。環境問題の解決には、3Rのうちのゴミそのものを生み出さないリデュースの重要性が指摘されています。一人一人が意識して行動していけば、ごみ減量は可能です。白井市の資源物を除く家庭系ごみの年間排出量は11,150t。印西地区ごみ処理基本計画には市民一人当たりの家庭系ごみの排出量の目標値は406gと示されています。現在、印西クリーンセンターの老朽化に伴い、住民参加型の取り組みのもと、新たなごみ焼却施設及びリサイクルセンターの整備が始められているところです。

- (1) 具体的に減量目標を決め周知啓発を行い、節約できた負担金の一部を基金とし、使途を公募する等の環境改善の取り組みについて。
- (2) 総合公園などの樹木、落ち葉の管理状況について。
- (3) ごみ減量には、有料化や生ごみの水切り、雑紙、プラスチック包装容器などの資源物の分別回収が有効ですが、効果的な水切り方法や、雑紙専用袋の作成について。
- (4) 参考にすべき先進事例の活用について。

質問事項	質問要旨
<p>1. 白井市の異次元での少子化対策について</p>	<p>昨年9月議会一般質問にて、2022年の出生数は80万人を割り、更に婚姻数が減っている傾向から今後さらに少子化が加速という予測を述べましたが、更に厳しい状況となっております。</p> <p>国でも「異次元の少子化対策」が言われておりますが、今後自治体レベルでも、既存の子育て世代の誘致政策だけではなく、出生数をいかに増やしていくかが重要になります。白井市は従前より市内での出生率は全国よりも低い傾向にありますので特に対策が必要と考えます。勿論その対策としては1つの制度だけではなく様々な側面の事を同時に行っていく必要があると考えます。</p> <p>内閣府として従前より「結婚、妊娠、出産、育児の切れ目のない支援」を掲げておりますが、少子化がさらに進んだ要因として、コロナ禍における若者の出会いの機会が更に不足したこと、経済的不安などが挙げられております。</p> <p>例えば、返済の必要な奨学金制度について、約半分の大学生が借りており、その返済の平均期間は15年との統計もあり、40歳近くで返済完了となることも大きな要因ではないかとの指摘もあります。</p> <p>そこで市としての少子化対策の現状と今後の支援拡大、特に現状の様々な制度の無償化を拡大した場合の費用とその財源を、これまで私は一般質問で今後の白井市で予想される少子高齢化社会への財源確保の為にも「異次元」の産業を訴えてまいりましたが、その点も踏まえて質問します。</p> <p>(1) 市として目標とする今後の出生数および出生率はありますか。</p> <p>(2) コロナ禍で更に出会いが不足する中で若者の経済不安も要因と考えられる結婚の減少についての、現状の支援と今後の対策は。</p> <p>(3) ①妊娠、出産における市の近年の推移と現状の市の支援は。</p> <p>②(要件の指定は難しいものの)仮に市で出産費用の無償化を行った場合の毎年の費用はどのくらいになるか。</p> <p>(4) 0歳児から2歳児までの保育無償化を所得制限なく行った場合の毎年の費用は。</p> <p>(5) ①小中学校の給食無償化を行った場合の毎年の費用は。</p> <p>②第二子以降で給食無償化した場合の費用は。</p> <p>(6) 仮に上記の政策を行う場合、市として今後の財政面で対応できますか。</p>

質問事項	質問要旨
<p>1. 移動困難な高齢者、障がい者の支援について</p>	<p>日本の人口減少・少子高齢化はますます進んでおり、2050年には総人口が1億人以下、高齢化率は約40%にもなると推計されています。本市の高齢化率は令和4年度27.7%ですが、行政区別に見ますと第二小学区周辺の中峠団地や第三小学校区周辺の丸山など九つの地域で高齢化率が50%を超えています。多くの方は、いつまでも元気な高齢者を目指し、日々健康管理に気を配っていますが、病院への通院や商店への買い物が困難になるのではないかという不安を抱えています。また、障がい者にとっても同様に自身や家族、親族が高齢化して移動が困難になったときの不安を抱えています。</p> <p>そこで、以下の点について伺います。</p> <p>(1) 現在の市の取り組みについて (2) 福祉有償運送について</p>

2. 誰一人置き去りにしない子育て支援について

子育てのスタートラインであるはずの妊娠時や0～2歳児について、従来の支援では手薄ではないかとの指摘から「伴走型相談支援」を進める動きが出てきました。

「伴走型相談支援」は、市の子育て世代包括支援センターなどの相談機関が、妊娠の届け出時や出生後などに面談を行い、出産育児の見通しを一緒に立てたり、必要なサポートにつなぐ新しい仕組みです。妊娠の届け出時と出生後の面談の後で、それぞれ5万円相当を給付する経済支援と一体的に行われます。

本市は、広報しろい2月1日号の一面に取り上げ、いち早くこれに取り組んでいます。そこで以下の点について伺います。

- (1) 妊娠届け出時から出生後までの支援について
- (2) 出生後から3歳児検診までの支援について
- (3) 保育園や幼稚園を利用しない就学前の親子の支援について

質問事項	質問要旨
<p>1. 誰もが暮らしやすいまちづくりを目指して</p>	<p>障がいの有無にかかわらず、女性も男性も、高齢者も子どもも、すべての人がお互いの人権や尊厳を大切にし、支え合い、誰もが生き生きとした人生を享受することのできる共生社会を実現するために、行政の役割は大きく、実効力が求められます。</p> <p>社会にある「障害＝バリア」を取り除いていくには、心身に機能の障害がある方が社会的障壁によって、どんな困りごとや痛みがあるのかに『気付く』ことが必要です。その気付きを受け止め、解消に向けた取り組みを推進し、多様な個人の能力が発揮される活力ある白井市とするために、以下質問をいたします。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 相談支援の充実に向けた取り組みについて (2) 家族支援の充実に向けた取り組みについて (3) 特別支援教育の生涯学習化推進に向けた取り組みについて (4) 多様性を尊重した共生のまちづくりについて (5) 障がい者の情報格差解消に向けた取り組みについて

質問事項	質問要旨
1. 市長の行政運営について	市長の行政運営について、取組み方及び考え方を伺います。 (1) 財政状況と見通し (2) 北総線値下げ効果の活かし方 (3) 職員管理の考え方 (4) 事業を進める際の市民との関わり方 (5) 近隣市との連携・広域化